

大槌で、星を見る。

第26回

12月14日(土)に、大槌町文化交流センターで「冬の星空観察会」夜空を見上げたその先に「」が行われました。雲一つない夜空の下、参加者は望遠鏡を空にかざし、冬の星空を楽しみました。

自分でつくる望遠鏡

12月14日(土)は、満月の1日前ということもあり、東の空には明るく輝く月と、そのすぐ下には木星を見ることができました。

観察会の参加者は、38人。この観察会の前には、第一部として、天体望遠鏡のワークショップが行われました。講師を務めた一戸町観光天文台の副台長吉田美幸さんによると、このワークショップで作製した望遠鏡は、17世紀にガリレオ・ガリレイが初めて木星を観察したものと同程度で15倍の倍率とのこと。参加者は、真剣なまなざしで講師の説明を受けながら、一つ一つ丁寧に

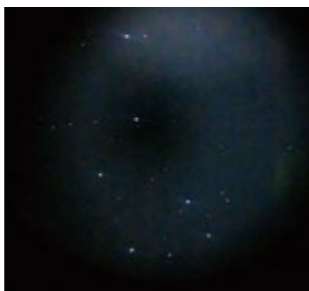
望遠鏡を作り上げていました。完成した後は、準備されたシールやテープなどでデコレーションを行い、自分だけの望遠鏡に仕上げ、満足そうな表情をしていました。



完成した望遠鏡にシールなどで飾り付け



月のクレーターがはっきり見えます



日本でもなじみ深いプレアデス星団(すばる)

夜空に光る星と月

第二部では、出来上がった望遠鏡を手に、思い思いに月や木星を眺めたり、講師に星の名前や星座を聞くなど、観察を堪能している様子が見えられました。

中でも関心を集めたのは、3台の天体望遠鏡による天体の観測です。この望遠鏡は、講師を務めた一戸町観光天文台の台長である吉田偉峰さんにより、今回の観察会にあたって準備されたものです。望遠鏡越しに

見る月のクレーターやプレアデス星団(すばる)などに、参加者は「教科書で見たのと同じ!」と驚きの声を上げていました。この日の空は雲がほとんどなく、星空観察には絶好の条件で、望遠鏡を通して、木星の衛星や土星の輪もはっきりと確認することができました。

吉田台長は「星空観察には、月や星を見ることのほかに、占星術や星座、神話や歴史など、いろいろな切り口があり、楽しみ方はたくさんあります」と説明し、「大槌の町は、



冬の星空を楽しむ参加者たち

都会と違って明るさがちょうど良いこともあって、街中でも星空を楽しむことができます。これから星空を観察する文化が根付いていってほしい」と、大槌の環境を活かした文化の醸成に期待していました。

大槌町公民館安渡分館(安渡公民館)に天体望遠鏡があります!

大槌町公民館安渡分館(安渡公民館)には、安渡町内会で所有している天体望遠鏡があります。町内会で主催する星空観察会が開催される場合は、館内やおしゃっち掲示板などでお知らせします。

